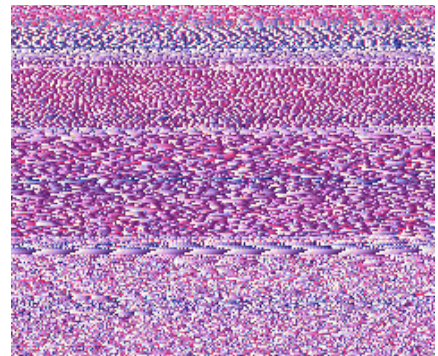


ALL

Search



今年も WIRE'10 に出演した、世界のトップ・フェーメールDJの一人 Ellen Allien。彼女のDJ・プロデューサーとしての活躍や、運営レーベル BPitch Control については今更説明するのが憚られる程でもあり、当サイトでも過去2回にわたりインタビューを行ってきた。

今回は、WIRE'10前日となる8月27日(金)彼女が展開するファッションブランド "EAF" (Ellen Allien Fashion) のエキシビジョン "Ellen Allien presents Effects"が東京・青山で開催され、会場に来ていた彼女にインタビューを行った。音楽からの切り口ではなく、あくまでデザイナー・Ellen Allien という一面にフォーカスし、彼女のクリエイションの源泉に迫る興味深い話がつまった内容となっている。

Interview : Ryu Hiraiwa (Nice me, Nice you)  
Introduction & Translation : HigherFrequency

A B C D E F G  
H I J K L M N  
O P Q R S T U  
V W X Y Z

..

#### —あなたのブランドのコンセプトについて教えてください

**E.A (Ellen Allien) :**「音楽から受けたインスピレーションをファッションに」ね。どのコレクションにも、私のDJ生活からのインスピレーションが反映されている。たとえば今回のテーマ「Night Flowers」は、名前どおり夜の花をイメージしているわ。DJをしているときに私の前で踊ってるお客さんみんなが「夜の花」だと思ったの。花には水をあげなければ枯れてしまうでしょ？だから、夜の花には常に良い音楽をあげよう、ということよ。それで、クラウドのみんなの写真を取り入れたの。こういうアイデアは、人と話してないときとか、ぼんやりしてるとき、飛行機に乗ってる時、それに他所の国にいるときなんかには沸いてくるわ。だから、コンセプトは「Ellenのライフスタイル」とも言えるかもしれないわね！(笑)

ファッションは、基本はとてもミニマルだけど、そこに少しのトリッキーさや、フリーキーさを加えたものよ。私にとって重要なのは、DJをやっていると動かなきゃいけないから、Tシャツをドレスにしなきゃいけない。だから(シンプルな)Tシャツに色々をミックスしているの。あと、旅行の荷物に詰め込んでも、アイロンをかけないで着られることも大切ね。






#### —いつごろからファッションを手がけようと思われるようになったんですか？

**E.A :**かなり前からね。実は音楽と出会ってDJになる前に、1年半くらい洋服づくりを学んでいたの。当時はあまり好きになれなくて...毎年毎年次の新しい流行を追うようなことに飽きてしまって。音楽はそれよりもずっと力強いものだと思って、DJを始めて、レコード屋で働くようになって、ラジオを聴いて、というような日々を過ごすようになったわけ。

それでもDJをやらないときは、いつもヴィジュアル的なイメージのアイデアが浮かぶし、私の仕事も6人のスタッフに任せて時間がとれるようにもなったし、これはいいタイミングだと思ったの。それで、新たな始まりとしてデザインをやることにしたのよ。

あと、「国は違うのに同じ服ばかり」って思ったのもきっかけね。たとえば、パリに行っても、ポーランドのお店でも、日本のお店でも、同じ大きなブランドの高級な服ばかりでしょ。私はそこまで高くなくて、クオリティがちゃんとして、スペシャルな服に惹かれるの。それにいつも自分らしくいたいしね。

—H&M や UNIQLO などはご存知ですか？そういう、いわゆる「ファストファッション」にはコンセプトが感じられない、という意見をよく聞きますが、どう思われますか？

- 
43: Coldcut Interview >  
2010.10.22
- 
42: DJ FOOD Interview >  
2010.10.22
- 
41: Darren Emerson Interview >  
2010.10.15
- 
40: Ellen Allien Interview >  
2010.10.08
- 
39: Margaret Dygas Interview >  
2010.10.01

ALL

Search



— 尊敬するデザイナーは誰でしょうか？

**E.A :** Bernhard Willhelm. テクノ・ヒッピーって感じよね！女性用に見える服が男性用だったりして、どっちなのかわからない、っていうのが面白いわ。あとは CHANEL が好きだから Karl Lagerfeld ね。Coco Chanel のストーリーが大好きなの。彼女はパリ（の洋服デザインの世界）で最初の女性だったでしょ。これは女性進出の歴史の中で重要なことだったと思うわ。あとは Second Skin を作り出した Hussein Chalayan ね。『上に着る服』というよりは、肌の上に層を作り出したという感じでしょう。

フランスでデザインされているクチュールはとても美しいし、しっかりと形作られているわ。あとは日本のミニマリズム。たとえば山本耀司のフリーな感覚、どんなシーンで着てもしっくりくる感じとか...世界中に大好きなデザイナーがいるわ。あとバッグなら Hermes の革バッグ。本当に素晴らしいわよね。

— 今回のテーマ「Night Flower」にかけてですが、どんな花が好きですか？

**E.A :** ハスの花が好きよ。白いハスも好きだし、どれも好きよ。あとはゼラニウムね。バラみたいな花が咲いて、ドイツではバルコニーに植えたりするのよ。子供の頃、母がたくさん育てていたわ。冬には切りおとして地下室に入れるけど、夏にバルコニーに戻すとまたちゃんと育つよ。素敵でしょ。(笑)

— 今もそうですが、このようにコミュニケーションをとられる際のあなたの姿勢にもいつもとても感銘を受けています。

**E.A :** 私も、自分のそういうところがいいと思ってるわ。(笑)

— そういえばロンドンに1年くらい滞在していたことがあると聞いていますが、ロンドンからはどのような印象を受けましたか？

**E.A :** その頃は若かったわね。ロンドンからはとても国際的な印象を受けたわ。当時のベルリンはあまり国際的ではなかったから...。ロンドンではインターナショナルな感覚へのドアを開けることができたと思うわ。たとえばクラブに踊りに行けばスターを見かけるし、ショッピングやレストランでもそうだったし。そういう体験がすごく新鮮で、そこから自分の中でエンターテインメントというものに対する考え方が形作られたと思う。

ALL

Search

ロンドンが好きだけど、色々和高すぎて住む気はしないわ。みんな必死で働いているし。大きな街けど家は小さくて、庭園もあって可愛らしいでしょう。だけど、やっぱりなんだか忙しい街だと思うの。車がなければ大変だし、電車にも乗らなきゃいけないし...

私はのんびりしてるほうが好きだから車は持ってなくて、ベルリンではバイクでどこでも行くし、よく歩いてるわ。気楽で、静かだし、平和だからベルリンが一番よ。だけど、そうやっているんな文化に触れた経験が、ただベルリンに居て受けるものよりも、自分のインスピレーションの源になっていると思う。ただ、ロンドンには日本などのアジアの人、ロシアの人、インドの人とか、いろんな人が住んでいて、そういうレストランに行くのが楽しいわね。

――食べものにも興味をお持ちなんですね。

E.A: 食べるのは大好きで何でも食べるわ！

――日本食では何がお好きですか？

E.A: うどんが好き。うどんが一番で、あと納豆！納豆のお寿司も大好きだし、ご飯に卵と納豆とかもね。日本のミニマルな食べ物が好きね。生の魚はあまり食べなくて、焼魚のほうが好き。天ぷらうどんや、しゃぶしゃぶとか、みんなで食べるのが楽しいわ。

――何でも「ミニマル」なものが好きなんですね。

E.A: ええ。でも、音楽だとメロディも好きよ！

――僕自身としては、「ミニマル」というのはすごく難しいことだと思うんです。すべてをちゃんと見て、そこから一番良いもの、誰が見ても良いと思えるものを見つけなければいけないですよね。

E.A: 私はいろんなところを旅して、色々なものを見てきたわ。そこには沢山の言語もあるし、必要のないものも沢山ある。色々な文化、異なる政治体制、違う種類のアート...。「美しさ」はなにか一つのものから生まれるわけではなくて、背景にさまざまなものが隠れているところから生まれるものだと思うの。それが私が光を当てたい部分ね。

――ブランドについての今後の展望をお聞かせください。

E.A: 見つけるのは大変だと思うけど、世界で一番の素材を手に入れたいわ。最高のレザーとか、本当はベルリン産の素材があるといいなと思っているんだけど...。パリに行くときは服飾素材の見本市に必ず行くようにしてて、全部の肌触りを確認してるわ。より良い素材を探していきたいと思ってる。あとは「スモール・コレクション」ね。大きく展開するものではなくて、良い素材で少量作るようなものね。とにかく、素材の質が一番重要よ。デザインのアイデアが時に素材と合っていないこともあるくらいだから。ベルリンにいて一番大変なのはその点だと思うわ。

――是非日本製の良い素材をご紹介します！

E.A: ええ、でも、ここからベルリンに送ると、送料がとて高くなってしまわちゃうよ。たぶんイタリアから買うほうが良さそうね...。時々、日本からもとても美しい素材を買うことがあるんだけど、本当に高いから少ししか買えないのよ。

――FASHION ELLEN ALLIENにはどのくらいのスタッフが関わってるんですか？パタンナーとか...

E.A: 私がまずドローイングでおこしたデザインを Marcus っていう大親友に渡してるわ。彼はパリで勉強してきた人で、普段はメンズのスーツをデザインしているの。FASHION ELLEN ALLIEN は実際のところ、私達2人だけでやってるの。

ALL

Search

――グラフィックデザインについてもご自身で？

**E.A.:**そこは他の人に任せているわ。私は鉛筆でアイデアを書いて、それをデザイナーに渡してるわ。

――僕も服飾をやっているんで、あなたのことはとても尊敬しています。

**E.A.:**ありがとう。本当に好きでやっていることだから、こうしなきゃ、ああしなきゃというようなプレッシャーもないし、私はただ、自分でできることをやっているの。できないことはしないし、なるようになれ、という気持ちでね。世界にはストレスを感じて生きている人たちがたくさんいて、何もかもやろうとしているけど、リラックスしましょう。

――あなたの服を着た人にはどのように感じてほしいですか？

**E.A.:**まず、着て動いたときの自由さ（Freedom）を感じてほしいわ。あと、平日の日中でも、FASHION ELLEN ALLIEN の服を着ることで、夜に踊りに行くときの気持ち、踊ってるときの気持ちを感じて、素敵な一日を過ごしてほしいわ。夜遊びで感じる楽しさ、そのときの気持ち、音楽を聴いているときの気持ちを、を日常にも持ち込んでほしい。ダンスフロアで感じるエネルギーは肌で感じるものでしょう？そして、笑顔でいてほしいなと思ってる。

――音楽とファッションはリンクしてますか？

**E.A.:**そうね、いつもそのシーズンと音楽をリンクさせているわ。私は音楽と自分の気持ち、雰囲気マッチさせるプロだしね。

End of the interview



at Ellen Allien presents Effects

ALL

[Ellen Allien Official Site](#)  
[Ellen Allien Fashion Official Site](#)  
[BPitch Control Official Site](#)